京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

令和7 年　2 月　26 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　藤　　洋 作　様

所 属 部 局　情報学研究科

職　　名　教授

氏　　名　大塚 敏之

助成の種類	**令和 6 年度　・　国際会議開催助成**	
国際会議名	第8回IFAC非線形モデル予測制御に関する国際会議（NMPC2024）	
開催期間	2024年8月21日　～　2024年8月24日	
開催場所	京都大学 百周年時計台記念館	
参加者	総数 178名	内訳 海外111名（ドイツ26名、アメリカ11名、中国10名はじめ20カ国）、国内67名
成果の概要	**タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　■ 無　□ 有（　　）**	
会計報告	事業に要した経費総額	13,743,369　円
	うち当財団からの助成額	1,000,000　円
	その他の資金の出所	参加登録料、計測自動制御学会、立石科学技術振興財団、京都文化交流コンベンションビューロー、企業スポンサー

経費の内訳と助成金の使途について

費目	金額（円）	財団助成充当額（円）
旅費交通費	3,056,638	0
会場・会議費	1,443,740	1,000,000
印刷製本・投稿・参加登録システム	2,225,056	0
通信運搬費	9,353	0
謝金	503,061	0
消耗品費・その他	1,080,906	0
レセプション費	5,424,615	0
合計	13,743,369	1,000,000

当財団の助成について

（今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。）
貴財団からの助成をいただいたおかげで、十分なスペースと使用時間を時計台記念館で確保することができました。口頭発表とポスター発表、コーヒーブレーク、昼食、会議を同じフロアで実施でき、参加者間の交流が促進できたと思います。参加者の皆様からも好評でした。世界的に産学から注目を集めている研究分野に関する国際会議をアジアに初めて招致し、世界的に著名な研究者に参加していただけたのには、開催地が京都だったことが大きく寄与したと思います。貴財団のご支援に厚くお礼申し上げます。

成果の概要／大塚敏之

第 8 回 IFAC 非線形モデル予測制御に関する国際会議（NMPC 2024）は、2024 年 8 月 21 日から 24 日にかけて、京都大学百周年時計台記念館にて開催されました。本会議は、新型コロナウイルス感染症の流行以降、初めて対面形式で開催された NMPC 会議となり、モデル予測制御に関する議論や協力を深める貴重な機会となりました。本会議は国際自動制御連盟（IFAC）主催のもと、計測自動制御学会（SICE）、自動制御協会（JAAC）、システム制御情報学会（ISCIE）との共催により実施されました。国内組織委員長を大塚敏之（京都大学）が、国際プログラム委員長を Moritz Diehl 教授（フライブルク大学）がそれぞれ務めました。

本会議は単一セッション形式で実施され、Sébastien Gros 教授（ノルウェー科学技術大学）、Daniel Quevedo 教授（クイーンズランド工科大学）、Maryam Kamgarpour 教授（スイス連邦工科大学ローザンヌ校）、Frank Allgöwer 教授（シュトゥットガルト大学）による基調講演に加え、Heejin Ahn 教授（韓国科学技術院）、Davide Scaramuzza 教授（チューリッヒ大学）、Katja Mombaur 教授（カールスルーエ工科大学）、Behçet Açikmeşe 教授（ワシントン大学）による招待講演が行われました。さらに、Dimitri Bertsekas 教授（アリゾナ州立大学／マサチューセッツ工科大学）による特別オンライン講義も実施され、会議を一層充実したものとしました。通常セッションでは、24 件の口頭発表と 46 件のポスター発表が行われました。投稿された 84 編の通常論文のうち 60 編が採択され、短い討論論文 10 編とともに予稿集に収録されました。また、オンラインでも発表動画や予稿集が提供されました。本会議には 21 カ国から合計 178 名（海外 111 名、国内 67 名）が参加し、そのうち 149 名が対面参加、29 名がオンライン参加でした。

開会式では、制御と最適化の分野で先駆的な貢献をし 2024 年 5 月に逝去された David Quinn Mayne 教授（インペリアル・カレッジ・ロンドン）を偲び、Eric Kerrigan 教授（インペリアル・カレッジ・ロンドン）による追悼講演が行われました。また、平安神宮会館でバンケットが開催され、京都大学邦楽サークルによる演奏が披露されました。最終日には、「NMPC 2030 ではどのような手法や応用が議論されるか？」というテーマの討論が行われ、将来の展望について活発な議論が交わされました。会議の最後には、ヤングオーサー賞が Jean Pierre Allamaa 氏（ルーヴェン・カトリック大学／シーメンス）に授与され、最優秀インタラクティブ発表賞は Matthias Köhler 氏（シュトゥットガルト大学）、Matthias A. Müller 教授（ライプニッツ・ハノーファー大学）、Frank Allgöwer 教授（シュトゥットガルト大学）の論文に授与されました。京都大学教育研究振興財団のご支援により NMPC 2024 は大きな成功を収めました。深く御礼申し上げます。

会議のようす

バンケット